

目的 近年農業機械による近代化は進んでいるようであるが、農村婦人の健康問題が大きくクローズアップされている。この様な現況の中で先にりんご栽培従事者(女子)を対象に着心地についてアンケートおよび実態調査結果より、りんご作業服の不適合性の影響も健康を阻害する一因となつてゐることが認められたので、今回は衣生活の向上と健康増進に役立たせることを目的として着用実態調査を検討した。

方法 調査時期：昭和56年5月中旬から8月上旬にかけて調査対象者は青森県中弘南地区のりんご栽培従事者の女子(120名) 調査内容は適合性・着装感・素材・型などを実態調査および聞き取り調査を併用した。

結果 適合性については40代～60代の年令層の肥満タイプの者に不適合が多く見受けられ、また外出着の劣化したものを着用している者にも多かつた。着装感においては、化学繊維特に合成繊維の静電気の発生しやすい材質が夏季の高温環境下において不快感をいだき、年令層に差異はなかった。また重ね着が作業環境条件に複雑な影響を与え特に5月上旬から7月上旬にかけて日中の環境気温の変動が著しいのでそれに適応する配慮がなされていないようで、特に若年層にその傾向が多い。素材は夏季の高温環境下において不快感をいだいているようである。型も多種多様のものを着用しているが季節により開口部・衿・袖口・裾など配慮する必要性があることを強く感じ今後その実現を検討してゆきたい